

サルモネラ症に注意しましょう



ぬかるんでいた放牧用の道を整備した後の様子。これなら肢の汚れも少なくなります。

新年度を迎え春の陽気を感じられる今日この頃、暖かくなつて元気になるのは、我々人間を含めた動物だけではありません。気温が上がると病気の原因となる細菌達も活発になってきます。細菌が引き起こす病気は乳房炎、肺炎：と様々ですが、その中でも対策が大掛かりになってしまふ病気のひとつとして牛のサルモネラ症が挙げられます。昨年は根釧管内で56件、特に筆者の所属する根室南部事業センターの診療区域では例年よりも多い12件、そのうち10件は、0-4歳の牛が罹患しました。それらの中には、0-1歳の牛に属し症状が重篤で爆発的な感染力を示すものも多数ありました。

一方、近年のサルモネラ症は全頭検査を実施した時には相当数が感染していた、という事例もまた少なくありません。このように牛群内に蔓延してしまうと治療・淘汰による経済的負担が甚大なものとなってしまいます。そのため、普段からの予防対策が特に重要な感染症と言えます。

サルモネラ症を予防する際のポイントですが、この病気は原因菌を含んだ糞便が口に入ることによって感染が成立し、発症に至ります。特に仔牛は感染しやすく、症状も重くなりやすいので注意が必要です。

以上を踏まえ、

と、牛が常に口をつける飼槽・水槽等を糞便で汚さないことが最も効果的な予防法となります。こまめに清掃する、消毒槽を設置する、糞便のついた長靴で飼槽の近くを歩かない、といった人間側の配慮については言うまでもありませんが、牛体の汚れにも注意を払わなければなりません。

春になるとパドックで寝そべってくつろぐ牛の姿をよく見かけます。このパドックがぬかるんでいると、体をたっぷり汚して帰ってくることになりまふ。それだけではなく、地面に溜まった水を飲むことで感染が起こってしまう事例も存在します。また、舎飼いの時に牛床上への排便を減らし牛体の汚染を抑えるためには、カウトレーナーの調整が必要となります。すぐに実践するには難しい事もあるかもしれませんが、牛体をキレイにすることは乳房炎の低減にも繋がりますので、是非とも意識して頂きたいところです。

ただし、どんな措置を講じても100%予防するというのは難しいものです。昨年の発生状況を考えると上記の対策だけでは不安だ、と思われる方が中にはいらっしゃるかもしれません。



清掃の行き届いた飼槽通路。飼料が汚染される心配もありません。



根室地区も青草が茂ってきました。
これから放牧のシーズンになります。

牛のサルモネラ症は経済的な負担だけではなく、畜主の精神的負担が大きい感染症でもあります。この記事によって、少しでも今後の発生減少に寄与することができれば幸いです。

(根室南部二課 中垣)

そのような場合にはプラスアルファの対策としてワクチン接種という選択肢があります。あくまで症状を軽くすることを目的とした（感染を防ぐことはできない）ワクチンですが、接種済みの牛は糞便中に排出される菌の量が減ることがわかっています。このため万が一、菌が農場内に侵入してしまった場合には、更なる感染の拡大を抑える効果が期待できます。

ネラ症ワクチンは、発熱や流産といった強い副作用が多数報告されていましたが、現在流通しているものは副作用のリスクがかなり低いものとなっています。昨年、根室南部事業センターでは、のべ2000頭以上の乳用牛にこのワクチンを接種しましたが、明らかな副作用を示した牛は1頭もいませんでした。夏に向けての防疫対策の一環として必要であると感じましたら、担当の獣医師に相談してみてください。

さい。ただし、肉の出荷制限期間が4か月間と長めに設定されていますのでご留意下さい。

牛のサルモネラ症は経済的な負担だけではなく、畜主の精神的負担が大きい感染症でもあります。この記事によって、少しでも今後の発生減少に寄与することができれば幸いです。